開催報告

第３６回地盤工学研究発表会

（株）大林組技術研究所 高　橋　真　一

第 36 回地盤工学研究発表会が、2001 年 6 月 12 日から 6 月 14 日にかけての 3 日間、徳島市内にある「アスティとくしま」をメーン会場、数百m離れた「祥雲閣」をサブ会場として開催された。論文発表は、11 会場を用いて、従来通りの発表形式のほか、デスカッションセッションが進められ、約 1350 編の地盤工学研究発表会としては最も多い発表数の発表が行われた。

ジオシンセティックス関連では、従来からの一般発表補強土、地盤改良を中心に活発に発表された。また今回デスカッションセッションは 11 テーマ設定され、この内、ジオシンセティックスに関連するテーマとして「廃棄物処分場」、「地盤関連ＩＳＯが我が国に及ぼす影響と学会対応」が設定され行われた。後者のデスカッションセッションでは、当ジオシンセティックス技術情報の編集に日頃ご尽力の編集委員長日本大学巻内教授が司会、同幹事の木幡先生がパネラーの一人を勤められた。時間の制約がある中、ほぼ満席の聴衆者に対して熱のこもった話題提供が進められた。

恒例の特別講演会は、開催地徳島大学のご出身で現在スタンフォード大学客員教授の丸山先生による「地球変動システムの原理―地震は予知できるか」が開催され、一般市民も含む多くの聴講者が、アスティとくしま・アリーナ席を埋めた。「先生御自身はこの講演のために米国より一時帰国され、講演後はすぐに米国へお帰りです。」との多忙ぶりが司会者から紹介され講演会が始まった。誰も直接見ることができない地球内部の構造や地球誕生以来の地球変動の状況についてＣＧを用いた紹介から始まり１時間半あまりの時間を熱弁された。　今回の発表会でも技術展示コーナーが開設され、52 機関の展示が行われた。今回は、テーマでグルーピングしてブース配置され、ジオシンセティックスに直接関連する「補強土」もその 1 つのテーマとして設定されたほか、３D による土石流映像の紹介、乾燥砂を用いた液状化状況の自動説明展示や、地盤調査車の展示など、各機関による熱心な技術紹介が行われた。（**写真―１**）

写真―１　技術展示コーナー「補強土」通り